

2761690177

## ドアノブと

### 訪問看護



いつまで続くか不定期発行

発行No. 005

16-90177



初めて訪問する時に気を付ける事として、「初めてのドアを開けようかな気持ち」で取り組むように伝えています。初めてのドアは誰もが慎重になります。そのドアが重いのか、軽く開くか、重厚なのか、簡素なものか、蝶番が錆びて音が出るかもしれないし、軽い力ですっと聞くかもしれない。建付けが悪くてドアノブを乱暴にまわすとハズれてしまうかもしれません。

人は自分の家の玄関やトイレのドアの重さを無意識に身体で覚えています。けれど初めてのドアというのは、加減がわかりません。そこに慎重さや優しさを忘れない対応を心掛けたいと思っています。

医療者は時としてガチャガチャと患者のドアを開けて処置をしなければならない場面があります。礼儀をわきまえていては間に合わないのです。

初めて入るお店のドアをどういう風に開けるか、自分で観察してみると面白いです。横柄な態度の暴だつたりします。

訪問看護では、医療者と患者の関係だけではなく、人と人としてのコミュニケーションが続いている。押すのか引くのかも定かではないドアが多い地域で、利用者さん一人一人の生活があり、その生活を尊重と肯定の姿勢でそつとドアノブに触れる関わりを心掛けています。

僕の場合はそれが犬だったので、世の中には犬と出会うことで、僕と同じように救われる人が居るかもしれません。犬に限らずですが、生きていくうえで自己肯定感を感じ取れる環境作りを手伝ったらあということを考えつつ地域支援の活動をしています。

※グループホームパレットでは残念ながら動物の飼育は禁止されています。(西井拓也)

人によってことなると思いますが、親から必要な時期に必要な愛情を注がれた人は、自己肯定感が強くなると言われています。反対に諸事情によって愛情を十分にかけられなかつたりすると、自分の存在感が希薄に感じてしまい、何か代わりのもので埋めようとしてしまいます。

犬のお話です。ハントンの代表者の西井はイジメや家庭環境に悩むことの多かった西井少年は、家に帰ると体中で喜びを表現する柴犬に心を救われて日々を過ごすことが出来ました。犬が愛情をくれることで、自分が肯定されている気持ちをはぐくむことが出来たのです。



ハントンの事務所内の紹介です。

フォト  
コーナー

Q: ハントンカレンダー  
って何ですか?

Q and A  
コーナー

A: カレンダーです。

ハントンの利用者さんの作品を紹介するハントンカレンダーは、毎月新しくなります。紹介されるのを励みに作品作りをされる方も。

ホームページからダウンロードできます。

★「ハントン」で検索してください★